

令和元年度 第1回学校評議員会 会議録

1 日時 令和元年7月8日(月) 15:00～16:30

2 場所 水沢高等学校 大会議室

3 出席者

○学校評議員

高橋 栄蔵 後藤 真子 岩村 正明

千葉 伸一郎 花田 英夫

○教職員

校長 及川 晃貴 副校長 中村 智和

事務長 高橋 正美 教務主任 去石 淳

進路指導主事 目黒 賢哉 保健主事 青井 千明

4 次第

(1) 開会 (2) 出席者自己紹介 (3) 校長挨拶並びに学校経営計画説明

(4) 学校概況説明 (5) 協議 (6) 閉会

5 協議内容 ○：学校評議員 △：教職員

○ 大学進学等の進路指導が充実しているが、進学後、岩手にもどってくるという観点での進路指導も充実して欲しい。

△ 公務員や教員志望者の様子を見ると、地元に戻って働き、生活したい、という意欲を持つ生徒も少なくないので、大学での学びを地元に戻元する方向での指導を心がけている。また、地域の産業などの紹介や、「いわて産業人材奨学金返還支援制度」などの大学卒業後に、岩手のものづくり産業に携わることで奨学金返済の負担が減る制度についての周知を図るなどして、指導の充実を図っていきたい。

○ 管内から多くの中学生が、盛岡や一関などの高校へ進学している現状に驚いている。

△ ある生徒はスポーツ関係で私立高校に進学したい、ある生徒は将来の職業を見据えて高専に進学したいなど、個々の生徒の希望で他地域への流出が見られる一方で、他地域からの流入は少ない現状がある。

○ 地域に医者が少ない現状があるが、水沢高校の医学部医学科への進学状況はどのようになっているか。

△ 浪人を含めると、毎年医学部医学科への進学者はいるが、数は少ない。原因としては、生徒の進路志望は、個々の生徒により異なっており様々な希望があることと、医学部医学科への進学へは、一定程度の高い学力が求められることにある。また、青森県や

秋田県と比較して、岩手県は医学部医学科への進学者が少ないといわれることがあるが、青森県や秋田県では、地元国立大学の医学部医学科が設置されていて、地元生徒を優先的に受け入れる「地元枠」の定員も多く、学費も通常の国立大学の授業料より安い。それと比較し、岩手県では岩手医科大学に地域枠があるが、定員が少なく、国立大学と同程度の授業料がかかる。

- 「地元枠」による進学は、卒業後、地元に残り地域医療に携わることが条件の場合が多い。地域医療には携わりたいが、過疎地域には赴任したくないという気持ちをもっている生徒もいると聞いている。また、世の中、リスクはつきものだが、本当に人の役に立つのであれば、安全な手術だけではなく、難度の高い手術に挑戦するなどして、リスクのあることをやり遂げることも必要である。海外では、リスクあることに挑戦した場合の免責があるが、日本ではないとも聞いているが、リスクあることに挑戦していくようなメンタル面を育てて欲しい。
- 今年は、参議院議員通常選挙や県知事選挙がある。有権者の生徒もいると思うがどのような指導をしているか。
- △ 総務省及び文部科学省が発行している政治や選挙等に関する副教材「私たちが拓く日本の未来」を生徒に配付し、授業などで活用することで主権者教育の充実を図っている。また、7月21日の参議院議員通常選挙では、選挙管理委員会からの文書を配付したり、期日前投票の周知などを図る予定である。
- 昨年度の進路状況で、理数科にいわゆる浪人の生徒が多かったのは何故か。
- △ 昨年度は、本校全体としていわゆる浪人が多くなった。その理由としては、前期入試で第一志望校を不合格になり、後期入試で第二志望校を合格しても、第一志望を達成するため敢えて浪人を選んだ生徒がいるほか、首都圏の私立大学が、定員通りの合格者数としたことなどで合格ラインが上がり、数年前は合格できた成績の生徒が不合格になっていることが考えられる。
- 教育の目的は人格の完成であり、そのためには、自己肯定感を高めることも重要である。小中学校では比較的自己肯定感が高いが、高校では低いようであるので、インターンシップなどの進路指導の一環で保育体験を実施してはいかがか。乳幼児が大切に保育されている現場を経験することで、自分たちも、このように大切に育てられてきたことや愛情が注がれてきたことを知り、自己肯定感の向上につながると思う。
- △ 令和4年度から実施される新学習指導要領においても、生徒の自己肯定感の向上が求められている。また、生徒の自然体験等が少なくなっている中で、体験活動をとおして

自己肯定感を高めていくことは重要であると考えているので、保育実習などを含め自己肯定感を高める取組について、今後検討していきたい。

- 先ほど、医学部医学科への進学には、一定程度の学力が必要とのことであったが、学力向上のために7校時授業を実施しているのか。
- △ 生徒の進路希望実現に向け、必要な学力をつけるために7校時授業を実施しているが、県内のいわゆる進学校の多くは、7校時授業を実施している。
- SSHの活動は、随時時間割に組み入れられているのか。
- △ 学校案内の「時間割の例」のように、基本的には時間割に組み込んで実施しているが、時期により時間をまとめて実施することもある。